

カップリング・インターンシップ(CIS)活動報告(アメリカ)

グローバルダイバーシティ&インクルージョン推進室

准教授 勝又 美穂子

8月10日～8月21日(移動含む)で、アメリカオハイオ州デイトン空港から車で15分のテイップシティに位置するDAIHEN Inc.にて初となるアメリカでのカップリング・インターンシップ(CIS)を行いました。参加学生は、大阪大学外国語学部2名、工学研究科1名、基礎工学研究科1名、オハイオ州立大学(OSU)工学研究科2名、人文学部2名、の計8名でした。

CIS活動開始1日目には事前研修として両大大学学生より両国の紹介、日本企業の紹介、コミュニケーションの基礎、CIS課題へのチーム協議などを行いました。国紹介や日本企業紹介などではOSUの学生より多様な問題提起や意見があり、自由討議の時間を多く持つことができました。8月13日からの4日間はDAIHEN Inc.にて、企業紹介、各部署の取り組みなどを学ぶと共に、役割や役職の異なる多くの皆様とのインタビューを通して学習しました。また、溶接ロボットの操作やマニュアル溶接の体験も行い、溶接技術についても知見を深めました。参加学生は、企業から提示された実習テーマ“Obtaining and development of good human resources during labor scarcity”に関してインタビューでお聞きした意見や情報、自身の経験を踏まえ、連日熱心に考察に取り組みました。企業研修最終日には同社顧客訪問を行い、実際に溶接ロボットがどのように利用されているか

を見学しました。その後、オハイオ州の州都コロンバスに移動し、最終報告会に向けた準備を行いました。

8月20日(月)には、オハイオ州立大学にて、DAIHEN Inc. 営業・マーケティング部長 Mr. Sharp 及びCISの調整から運営までご担当頂いた Mr. Kooro、そしてOSUからは工学部国際担当 Ms. Callihan、Prof. Wei、人文学部 East Asian Languages and Literatures より、Prof. Bender、Assoc. Prof. Fukumori 他2名が、接合研からは所長藤井教授が参加の下、最終報告会を開催しました。学生達は2チームに分かれ、テーマに対する考察や提案を行いました。日本とアメリカの働き方文化の違いを比較しつつ、双方の良い点を活かして人材の長期的な確保を検討するなど、日系企業でありながら、企業体系をアメリカ社会に順応させた同社の状況を念頭に置いた提案が多数みられました。

アメリカでは初のCIS実施であり、当初は不安も多くありましたが、OSUの学生からは通常想像するインターンシップでは得ることが難しい、仕事や会社に対する社員の深い考えや関わり方を学ぶことができ、非常に有意義であったとのコメントがありました。改めて、受け入れていただきましたDAIHEN Inc.の皆様、そして連携頂いたOSUの皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。



写真上：OSU キャンパス見学中の学生8名

写真左：最終報告会を終えて